



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	A Practical Study on Improving Classroom Communication Using Transactional Analysis in Classrooms with Many Psychological Games [an abstract of dissertation and a summary of dissertation review]
Author(s)	小泉, 光世
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(理学)
Dissertation Number	甲第14789号
Issue Date	2022-03-24
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/85896">https://hdl.handle.net/2115/85896</a>
Rights(URL)	<a href="https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/">https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/</a>
Type	doctoral thesis
File Information	Mitsuyo_Koizumi_review.pdf, 審査の要旨



## 学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称 博士(理学) 氏名 小泉光世

審査担当者 主査 教授 池田文人  
副査 教授 湯浅万紀子  
副査 准教授 三上直之  
副査 准教授 山田邦雅  
副査 教授 室城隆之 (江戸川大学社会学部)

### 学位論文題名

A Practical Study on Improving Classroom Communication  
Using Transactional Analysis in Classrooms with Many Psychological Games  
(心理ゲーム多発学級における交流分析を用いた授業コミュニケーションの改善に関する実践研究)

#### 博士学位論文審査等の結果について (報告)

近年、授業中の子どもたちによる問題行動に関する研究が盛んに行われている。しかし、その多くは問題行動の原因を子どもたちに求め、解消することを目的としており、問題行動を起こす子どもたちと教師、あるいは他の子どもたちとの関係性という観点が欠如している。

本論文は、他者との関係性における心理状態に関する理論である交流分析を用いることにより、実際の授業に参加観察しながら、授業中の教師と子どもたちのコミュニケーションに関するデータを収集した実践研究である。収集したデータは、交流分析の観点から分析することにより、子どもたちの問題行動が、このような子どもたちと教師との間で行われる心理ゲームであることを特定した。そして、交流分析における心理ゲーム解消の知見を実際の授業に援用することにより、問題行動の改善を試み、一定の効果があることを検証した。

交流分析に関しては理論的研究が主流であり、本研究のような実践研究を科学的に追求した事例は稀有である。しかし交流分析は本来実践で活用されてこそ意義のあるものであり、本研究は交流分析に基づく実践を科学的に研究した先駆的なものである。したがって本研究は、交流分析に基づく実践を科学的に研究すること推進するという学術的な意義がある。このような実践研究と理論研究との両輪により交流分析の発展が期待できるためである。

よって著者は、北海道大学博士(理学)の学位を授与される資格あるものと認める。